2026 年 5 月 5 日

【SUPER GT 第 2 戦 /富士スピードウェイ レポート】

リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R が 6 番グリッドから逆転勝利

2026 年 SUPER GT 第 2 戦富士大会。今大会は 3 時間レースで、2 度の給油を伴うピットストップが義務付けとなっている。レースウィークは不安定な天気が予想されていたが、蓋を開けてみれば激しい雨と風に見舞われたのは予選日の夜半。公式予選も決勝レースもドライコンディションで行われた。

気温 20 度、路面温度 29 度というコンディションで始まった公式予選は、GT300 クラスでリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手／木村偉織選手)がヨコハマタイヤ勢最上位の 6 位。今季よりチームに加入した木村選手が Q1 でグループ 2 番手の好タイムを記録すると、その勢いを受けたオリベイラ選手が全体 6 番手タイムをマークした。リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R の武器はレースペースの力強さ。3 列目からのスタートだが、十分に表彰台は狙える位置だ。さらに、8 位に seven x seven PORSCHE GT3R EVO(スヴェン・ミューラー選手／藤波清斗選手)、9 位にグッドスマイル 初音ミク AMG(谷口信輝選手／片岡龍也選手)、10 位に UPGARAGE AMG GT3(小林崇志選手／新原光太郎選手)がつけ、予選トップ 10 の中に 4 台のヨコハマタイヤユーザーが入る形となった。GT500 クラスでは、唯一のヨコハマタイヤユーザーである WedsSport BANDOH GR Supra(国本雄資選手／阪口晴南選手)は 14 位という結果だった。

夜半の雨風は明け方には落ち着き、強い風で雲が吹き飛ばされた富士スピードウェイには強い日差しが差し込んでいた。気温 25 度、路面温度 44 度、ドライコンディションで 3 時間のレースがスタート。リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R は、オリベイラ選手がオープニングラップで 2 台を捕え 4 番手にポジションアップ。16 周目に入るホームストレートで 3 番手の車両に並びかけると、そのまま 1 コーナーで豪快なオーバーテイクを披露し、レース序盤に表彰台圏内の 3 番手に浮上した。前を走る 2 台は、リアライズ日産メカニックチャレ

ンジ GT-R よりも先に 1 回目のピット作業に向かい、見た目上オリベイラ選手がトップに。41 周終了時点でピットインし、第 2 スティントの木村選手に交代した。木村選手のスティントでは、GT500 クラスの車両がピットロード入り口付近でストップしてしまいフルコースイエロー(FCY)が出されたが、ピットクローズされている FCY の間に暫定トップを走る車両がピットイン。ガソリンが尽きてしまう直前でやむを得ないピットインだったが、これにより 60 秒ストップのペナルティを課されることに。こうして暫定 2 番手を走行していたリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R は見た目上でも再びトップに躍り出た。2 度目のピットインは 2 時間 15 分が経過したころで、最後のスティントを託されたのはオリベイラ選手。このピットストップでは暫定 2 番手でコースに復帰したが、前を走るのはピットインの義務を消化していない 1 台。この車両がピットに向かうと、名実ともにトップに返り咲いたリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R は最後までペースを緩めることなく走行。GT500 クラスのトップ車両との位置関係で、最終的には 2 位よりも 1 周多い 107 周を走破してトップチェッカーを受けた。リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R の優勝は、2023 年第 2 戦以来、3 年ぶり。木村選手はチーム移籍 2 戦目での勝利となった。

GT500 クラスの WedsSport BANDOH GR Supra は、国本選手がスタートドライバーを務め、阪口選手が 2 スティントを担当。長いレースでアクシデントに見舞われ後退するライバルもいる中、堅実な走りで 3 時間を戦い抜き 10 位入賞となった。

■ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手 (リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R)
【今回の成績 ：GT300 クラス 優勝】
私たちは、自分たちのクルマに対してもヨコハマタイヤに対しても豊富な経験を持っています。その経験からレースに強いセットアップを導き出せていることが、自分たちの武器につながっていると思いますね。今日はスタートで 2 台をパスできたことでその後の展開がいくらか楽になりました。今シーズンは新しく木村選手をチームメイトに迎えましたが、非常に才能のある速い選手です。彼と一緒に頑張って、チャンピオンシップを勝ち取れたらいいなと思っています。

■木村偉織選手 (リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R)
【今回の成績 ：GT300 クラス 優勝】
長いレースになると、いつどこでどんなトラブルに見舞われるか分かりません。実際、今日のレースでは数チームにアクシデントが起きていたので、クルマをいたわりながら走っていました。チームがレースウィークに向けてとても念入りにメンテナンスしてくれたことが実になったと思います。KONDO RACIG は 3 年前の同じ富士大会で優勝していますが、その時よりも距離が長くなる今回のレースに向けてはタイヤをどうするのかというのが大きなテーマの一つでした。そんななか、予選でも決勝でもパフォーマンスの高いタイヤを用意していただいたヨコハマタイヤに本当に感謝しています。目の前のレースでいい仕事をし続けることが新たなチャンスにつながると思うので、1 つ 1 つのレースを大切に、結果にこだわってやっていった先に、オリベイラ選手と一緒にチャンピオンを獲れればいいなと思っています。

■中崎敬介 [横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]
5 月の富士大会は気温の予想が難しい微妙な時期ですが、今回の決勝の路気温は予想したよりは少しだけ高めでした。

56 号車のタイヤは構造もコンパウンドも既に実績のあるものを持ち込み大きく外すことは無いと自信はありましたが、優勝という最高の結果となって良かったです。56 号車はこれまで安定して好成績を収めており、ドライバーの速さに加えレベルの高いチーム力・マネジメント力の結果だと思います。